

9 学校評価の項目や方策を見える形（行動）でまとめたい

【人や組織に対する思い、願い】
 充実した教育活動の基盤となる、活力ある校内組織づくりに全職員で取り組み、その過程や成果を見えるようにしたい。

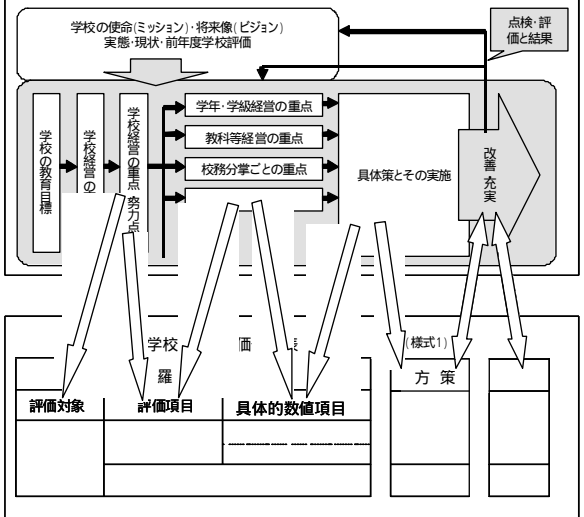
【行動モデルを活用するメリット】
 羅針盤に評価対象として「組織運営」を加えることにより、教職員や外部評価者に組織体としての学校を意識してもらえ、行動モデルを参考に「組織運営」の具体的数値項目や方策等を作成することにより、組織の活性化に向けた取組状況が見えるようになる。

ステップ1 羅針盤の評価項目に「組織運営」を加えましょう

学校評価については、「平成16年度版群馬県『学校評価システム』」（平成16年3月）に沿って進めましょう。

各学校には、学校経営の方針や重点、計画があります。そこで、右図のように学校経営の方針や重点を羅針盤の項目（評価対象 評価項目 具体的数値項目）にしましょう。

教育活動を中心とした共通項目とは別に、学校経営や運営の充実を目指した独自項目を作成しましょう。特に教育活動の充実にかかすことのできない、**組織の活性化をねらいとした評価対象として「組織運営」**を加えましょう。



ステップ2 評価項目や改善策に行動モデルを活用しましょう

行動モデルは、一人一人の行動の目標となるとともに、互いに評価することが可能です。そこで、具体的数値項目や方策、下位の評価項目の作成では、行動モデルやその考え方を活用しましょう。

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方策 or 下位の項目
学校経営の重点の具現化に向けて組織運営が適正かつ効率的に実施されていますか。 「組織運営」を評価対象にした例	一人一人の職員が、経営の重点の具体化に主体的に取り組んでいますか。	校務分掌の全主任（100%）が、仕事に向かう意識や姿勢において、自らの行動で模範を示していますか。 本資料4頁の4の行動モデルを修正した例 本資料11頁の2の行動モデルを修正した例	困難な場面でも、前向きにとらえて挑戦する考え方や態度を示している。 仕事の段取りや手順を示したり、仕事の始まりの一部を自ら行ったりして担当に依頼し、担当が責任をもって仕事を遂行できるようにしている。
	